

香川高等専門学校 平成26年度 年度計画・実績報告

S: 年度計画を十分に履行している  
 A: 年度計画をほぼ履行している  
 B: 年度計画を十分に履行していない  
 C: 年度計画を履行していない

平成26年度 年度計画	平成26年度 実績報告	自己評価	
独立行政法人国立高等専門学校機構の平成26年度の業務運営に関する計画に基づき、香川高等専門学校(以下「香川高専」という。)における平成26年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。			
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する事項	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する事項		
(1) 入学者の確保 ① (a)各中学校が実施する高校説明会に参加するとともに、後援会と連携して入学案内等の配布等の広報活動を進める。 ① (b)教員・在校生による出身中学校訪問を実施し、香川高専をPRする。 ① (c)地域との連携を深め、小学生あるいは保護者や一般市民を対象にしたイベントに参加して、香川高専をPRする。 ① (d)学習塾を訪問して、塾講師に香川高専の学生募集説明を実施する。 ① (e)入試の情報発信に、香川高専HP、公共施設展示スペース等を活用する。	(1) 入学者の確保 ① (a)48中学校の高校説明会に参加し、学校説明を行った。後援会役員と連携して入学案内を配布した。 ① (b)教員11名が出身中学校を訪問し、学校説明を、在校生79名が出身中学校を訪問し、近況報告と学校説明を行った。 ① (c) ・高松春の食と文化のフェスタ2014に参加協力し「小中学生のための科学体験フェスタ」を開催しPRした。仁尾八朔人形祭りに参加し、作品展示等を行いPRした。みとよ商工まつりに出展した。金蔵寺こどもまつり、法の郷いきいきまつり2014、新浦島伝説アート体験in箱浦、比地小学校地域ふれあい活動、など各種イベントに参加し、香川高専をPRした。 ・香川県・国土交通省四国地方整備局と連携し、小中学生親子対象の土木構造物見学ツアーを実施した。 ・地域の小中学生や市民などを対象に、「小学生・中学生のための香川高専科学体験フェスタ」をはじめとする香川高専をPRする多くのイベントを開催した。 ・「三豊市少年少女発明クラブ」、「放課後児童クラブなどの出前講座」、「クリスマスコンサート」などで地域との連携を深め、香川高専PRの機会とした。 ① (d)21学習塾を訪問し、塾講師に学校説明、学生募集説明を行い、関係資料を配布した。 ① (e)学校HPに学生募集関連行事並びに募集資料を掲載し、随時更新している。香川県立図書館の展示スペース(掲示板)に学生募集ポスターを常設掲示した。	A	
② (a)入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパスを複数回開催する。 ② (b)「高専女子百科Jr(香川高専版)」冊子、「高専キラキラガール」冊子や女子卒業生の進路調査結果を用いて、女子中学生対象の説明会やHPの女子中学生向け頁を充実させる。	② (a)高松キャンパス、詫間キャンパス、徳島、岡山、倉敷の5会場で入学者募集説明会を実施した。また、香川、徳島、愛媛、岡山県内の8地区で地区別学校説明会を開催した。体験入学を実施した(3回)。オープンキャンパスを実施した(両キャンパス各2回)。 ② (b)「高専女子百科Jr(香川高専版)」改訂版冊子を作成し、中学校・中学生に配布した。「高専キラキラガール」冊子を中学校・中学生に配布した。オープンキャンパスの際、女子学生コーナーを設けた。	A	A
③ (a)入学案内を作成し、中学生やその保護者に配布するとともに、中学生向け香川高専Webコンテンツを充実させる。 ③ (b)小中学生向け公開講座や地域連携に係る各種イベント等を利用して積極的な広報活動を行う。 ③ (c)高専機構の作成した広報資料を有効に活用する。	③ (a)入学案内、学校案内2015を作成し、オープンキャンパスや地区別学校説明会等で中学生やその保護者に配布した。入学案内、学校案内をHPに掲載した。 ③ (b) ・小・中学生向け公開講座を多数開催している。地域連携では、比地小学校で開催された「地域ふれあい活動」、川之江北中学校文化祭ふれあい地域体験講座などで「簡単ロボット教室」を開催した。小豆島町池田公民館で「出前ものづくり講座」を行った。豊中町桑山・本山放課後児童クラブや河内小学校放課後児童クラブで「簡単ロボット教室」を開催した。詫間小学校で「科学教室」を実施し広報活動を行った。 ・中学生又は小学校高学年を対象とした公開講座「はじめて体験するプログラムープログラムで遊ぼうー」等、小・中学生向け公開講座を多数開催し積極的に広報活動を行った。 ・「孫と祖父母の算数教室」や「ものづくり教室」の開催を通じて、地域へ広報活動を行った。 ③ (c)「キラキラ高専ガール」を入学者募集説明会、体験入学、オープンキャンパス、中学校訪問で配布した。高専広報映像「21世紀のエンジニアを目指す、進化する高専」を地区別学校説明会等で放映した。	A	A
④ (a)募集要項の記述を見直し、志願者に正確な情報を伝える。 ④ (b)入学者の出身中学校別成績分布から追跡調査を実施する。	④ (a)志願者並びに中学校教員に正確な情報となるよう、募集要項の記述を見直した。 ④ (b)入学者の出身中学校別に成績分布図を作成して、入学後の成績について追跡調査を実施し、現在の推薦基準や選抜方法に不都合のないことを確認した。	A	A

平成26年度 年度計画	平成26年度 実績報告	自己評価	
⑤ (a)入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパス等を通じて高専の良さをアピールする。	⑤ (a)入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパス等を通じて高専の良さをアピールした。	A	A
⑤ (b)オープンキャンパス等で女子学生コーナーを開設する。	⑤ (b)オープンキャンパスで女子学生コーナーを開設した。	A	
⑤ (c)岡山・愛媛・徳島地区で広報活動を行い、母数を増やす。	⑤ (c)岡山・徳島地区で入学説明会を行った。岡山・徳島・愛媛地区で学校説明会を行った。	A	
⑤ (d)女子学生の修学環境の改善のため、女子トイレ・女子寮の整備を推進する。	⑤ (d)〔詫間C〕第二学科棟改修工事において、女子トイレの増設及び老朽改善を実施した。	A	
<b>(2)教育課程の編成等</b>	<b>(2)教育課程の編成等</b>		
①-1(a)本科は、高度化再編の統合設置計画における第五年次履行期間であり、計画完成年次としての各学科の充実を図る。	①-1(a)専攻科において、完成年次の卒業生の受け入れに対応した詫間キャンパス履修コースに関する規程等の一部改正を検討した。	A	A
①-1(b)地域性を踏まえて、学科や専攻科の将来構想を策定し、教育研究の個性化、活性化、高度化のために改組再編の要否検討を継続する。	①-1(b)機構役員に対して、学科改組改編構想を説明した。	A	
①-2 育成すべき人材輩出における地域ニーズを把握するための調査事業において委託内容項目を検討する。	①-2学科改組改編計画を練り上げるため、平成27年度に「新学科設置委員会」を設置する。	A	
② (a)低学年における基幹的な科目の教育課程について継続的に到達度を把握し、「数学」「物理」については、「学習到達度試験」過去問を授業に反映させる取組など、試験結果を重視した学力向上及び教育内容の改善措置を講じていく。	② (a)数学・物理・英語などの低学年における基幹的な科目の学力の達成度を把握するよう努力している。数学・物理に関しては、過去問を授業に反映させ、プリント等を利用して、学力向上に努めた。	A	A
② (b)「英語」については、技術者として必要とされる英語力の涵養のため、1～3年生へはTOEIC BridgeやGTECを、4年生にはTOEIC IP等の外部試験を受験させる。外部試験の結果を分析し、それをもとに教育内容の改善に努める。	② (b) [高松]1、2年生全員を対象にTOEIC BRIDGEを、3、4年生、専攻科1年生全員と5年生、専攻科2年生の希望者を対象にTOEIC IPを実施した。 [詫間]「英語」については、H26年度は希望者を対象に3回、4年生と専攻科1年生全員に1回、TOEIC IPを実施した。結果として20名がTOEIC IPで400点以上に達した。更に、GTECを1、2年生には2回、3年生には1回実施し、特に1、2年生は成績に顕著な伸びが見られ、3年生も昨年度のスコアに比べて伸びが見られた。スコアを分析したところ、リーディング能力に改善の余地があるため、H27年度は多読と精読を組み合わせた授業を展開することになった。 英語力の涵養を図るため、図書館にて、英語多読図書を充実した。	S	
③ 授業評価アンケートを在学生に実施し、教育活動の改善・充実に資するために授業の評価結果について、全教員にフィードバックする。	③ 授業評価アンケートを実施し、全教員にフィードバックした。 [高松]本科科目については、教務主事が指定する科目(非常勤を含む全教員)について実施した。実施後、集計結果をもとにクラスで対話会を行い、学生・教員双方が対話報告書を提出した。 [詫間]本科科目については、教務主事が指定する1又は2科目を含めた2科目を実施した。意見に対する返答、結果の分析と今後の取り組みを報告提出した。	A	A
④ 「全国高等専門学校体育大会」、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校デザインコンペティション」、「全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストに積極的に学生を派遣し、香川高専のPRIに繋がるような優秀な成績を挙げられるよう、学生の課外活動意欲向上となる支援措置を講じ、関連学科においても働きかけも行う。	④ [高松] ・電気情報工学科の教員が主導し、全国高等専門学校プログラミングコンテストへ3チームの応募を行った。予選の結果、競技部門1チームが本選への出場となり、本選前に他部門で応募した学生の前でデモを実施し他者のコメントを得る機会を設定する等の完成度を高めるための取り組みを行った結果、本選では、準決勝を2位通過し、高松キャンパスとしては競技部門で初めてとなる決勝進出を果たした。 ・第8回全国高専英語プレコンで高松キャンパスからスピーチ部門で2位入賞、プレゼンテーション部門ではCO CET賞、日本工業英語協会会長賞のダブル受賞を果たした。 ・全国高等専門学校体育大会では高松キャンパスでバレーボール男子(準優勝)、バドミントン男子(第3位)、バスケットボール男子(第3位)が上位入賞を果たした。 [詫間] ・「全国高等専門学校体育大会」、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」にそれぞれ出場し、「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」では自由部門において最優秀賞(文部科学大臣賞・情報処理学会若手奨励賞)等を受賞した。いずれも出場選手には交通費を全額補助するとともに、帯同教職員が参加選手をサポートした。また、今年度から夏季休業中の特別開寮を実施し、寮生の積極的な課外活動を促した。 ・全国高専プログラミングコンテストの自由部門(詫間チーム)が、独立行政法人情報通信研究機構が主催する「起業家甲子園」で審査員特別賞と企業賞を受賞した。	A	
⑤ 周知された他高専の取組状況などを参考に、現在実施している社会奉仕活動や自然体験活動に、より多くの学生が参加できる体制の整備について引き続き検討し、参加意欲の向上のため、社会貢献に資する活動は積極的に全学に向けて紹介する。	⑤ [高松]環境整備作業(近隣清掃活動)を6月19日(木)に実施。多数の教職員、学生の参加を得て正門から歩道周りの美化に役立った。 [詫間]今年度より学生会の呼びかけで学校周辺の除草作業(5月・26名参加)や清掃活動(11月・30名参加)を実施し、それぞれ参加者募集と実施報告を学生会新聞、及び学生会のホームページで全校に向けて紹介した。	A	



平成26年度 年度計画	平成26年度 実績報告	自己評価	
<b>(3)優れた教員の確保</b> ① 多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないように、関係団体等を通じて教員の募集活動を行い、高度な実務能力を持つ人材の発掘に努める。	<b>(3)優れた教員の確保</b> ① 平成27年3月末現在の多様な背景を持つ教員は68.6%。教員公募については、独立行政法人科学技術振興機構及び関係学会等に公募を依頼し、高度な実務能力を持つ人材の確保に努めた。	A	
② (a)長岡、豊橋の両技科大との人事交流制度を継続して活用するために、相互の連携をはかり、候補者の選考を行う。	② (a)アドバンスコースで技科大との連携を図った。各学科に平成27年度人事交流候補者の推薦依頼を行った。	A	
② (b)四国地区高専間の教員人事交流を積極的に推進するため、ブロック校長会議で運用を協議し、引き続き交流を行う。特定分野における実務適任者として企業から推薦された人材に任期を付し、受け入れを継続する。	② (b) ・平成26年度については、本校と新居浜高専間で教員交流を実施している。当初1年間の教員交流であったが、更に1年間の期間延長を行うこととなった。 ・企業からの実務適任者を10月末日任期で受入を実施した。11月からは、同人を引き続き香川高専専任教授として採用した。	A	A
③ 専門科目については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者を、一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者を、それぞれ採用時の条件とする。	③ 一般科目においても、博士の学位を持つ者を採用時の条件として教員公募を行った。教員公募については、専門科目は博士の学位を有する者、一般科目は博士の学位を有する者若しくは修士の学位を有する者を、採用時の条件として教員公募を行っている。	S	
④ (a)女性教職員のために良好な職場環境の整備を推進する。	④ (a)香川高専男女共同参画推進会議において、女性教職員及び女子学生のために良好な職場環境の整備について、検討を行い、H27年度の改修工事により女性教職員の休憩室・更衣室・パウダールームを整備予定としている。	A	A
④ (b)採用条件を女性限定とした教員公募を実施する。	④ (b)一般教育科(英語)教員公募で女性限定で公募を実施したが、適任者がいなかったため、女性優先公募に切り替えて公募し、1名の女性教員を採用した。また、建設環境工学科の教員公募については、女性優先公募を行い、1名の女性教員を採用した。	A	
⑤ (a)高専機構の開催する各種研修会等へ適任者・参加希望者を積極的に派遣し、研修報告の学内周知を推進する。	⑤ (a)高専機構が開催する次の研修会に適任者を派遣した。「新任課長研修会」、「初任職員研修会」、「労務管理研修会」、「人事事務担当者説明会」、「メンタルヘルス研修」、「新任教員研修会」、「メンタルヘルス研究集会」、「英語授業講義力強化プログラム」、「教員研修(管理職研修)」、「知的財産に関する講習会」、「教員研修(クラス経営・生活指導研修)」、「人事評価制度研修会(被評価者向け)」等。	A	A
⑤ (b)各種啓発セミナー等の情報告知に努め、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)が提供する各種研修等を積極的に活用する。さらに、全教職員が参加するFD・SD研修会を開催する。	⑤ (b)SPOD開催の「管理監督者のためのメンタルヘルス研修会」に教員を派遣した。9月17日(水)にFD・SD研修会を実施。徳山工業高等専門学校天内教授による「認証評価対応について」の講演を実施した。 平成26年9月18日(木)SPOD講師派遣プログラム「事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育」を実施した。	S	
⑥ 香川高専の名を高める顕著な功績が認められた教員や教員グループを校長が表彰し、国立高専教員顕彰に推薦する。	⑥ 平成26年度国立高等専門学校教員顕彰の一般部門及び若手部門に各1名の候補者を推薦した。	A	
⑦ 高度化推進のスケールメリットを活かして校長裁量経費を重点事項に優先配分し、教員の国内外の大学等での研究・研修及び国際会議参加に対する旅費等の支援を行う。	⑦ 科研費申請と同じ様式による校長裁量経費申請としたため、採択基準にスケールメリットを活かすような協働事業を優先した。	A	
<b>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</b>	<b>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</b>		
①-1 (a)モデルコアカリキュラム(試案)に関する説明会、勉強会等を実施する。	①-1 (a)9月8日(月)に高専機構本部事務局教育研究調査室室長を講師として招き、モデルコアカリキュラム勉強会を実施した。両キャンパスをGIネットで接続し、77名の教職員が参加した。	A	A
①-1 (b)学校全体でモデルコアカリキュラム(試案)と現行シラバスの到達目標・内容を照合し、適合度を確認する。	①-1 (b)学校全体でモデルコアカリキュラム(試案)と現行シラバスの到達目標・内容を照合し、適合度を確認した。	A	
①-1 (c)開発提供されたICT活用教材を積極的に利用する。	①-1 (c)e-Learning、Webclass、クリッカー、自作パワーポイント教材などによる授業を実施した。	A	
①-2 「高専学生情報統合システム」の説明会に参加し、機能要件(案)に対する要望等を検討する。	①-2 平成26年4月機構本部主催教務システム検討会に出席。平成26年5月検討会の内容を教務小委員会で報告し、各学科からの意見を収集し、要望等取りまとめた。平成26年6月四国ブロック会議に出席し、各高専の要望等を検討した。	A	
② (a)JABEE審査結果を有効に活用し、教育プログラムの整備を行う。	② (a) ・特別実験・演習Ⅱにおいて、エンジニアリングデザイン教育に取り組んでいる。 ・学習・教育到達目標について、同窓会、専攻科修士生就職先企業、および専攻科修士生へのアンケート調査を行った。	A	A
② (b)資格試験等の受験を推進し、資格取得状況を把握するとともに、受験者を支援するため在学中の取得資格を学修単位として認定する。	② (b)学生用掲示板に受検案内ポスターを適宜掲示、TOEIC、無線従事者国家試験等を本校で実施するなど、学生の便宜を図った。資格取得が単位認定の対象となる資格の一覧を学生便覧に掲載し、学生の申請に基づき教務委員会で審議の上単位を認定した。	A	

平成26年度 年度計画	平成26年度 実績報告	自己評価	
③ 交流活動取組情報を入手し、学生を大学や他機関提供の研修プログラムに参加させる。	③ 2015年度高専生のための英語キャンプ(熊本高専主催)に2名参加した。長岡技科大・豊橋技科大インターンシップ、北九州工業大学インテリジェントカー・ロボティックスコースのインターンシップなどに参加した。	A	A
④ 教育実践例報告会を全学レベルで開催して各学科の優れた取り組みを共有しつつ、公表された総合データベースを活用して、教育方法の改善を議論する。	④ 平成26年12月1日(月)平成26年度教育実践事例報告会を実施した。	A	
⑤ 機関別認証評価の受審査への準備を進める。	⑤ 平成27年度に「企画評価室」を設置し、機関別認証評価の受審査への準備を進める。	A	
⑥ (a)香川高専独自の「スケジュールダイアリー」を配付し、就活指導の一貫としてインターンシップ参加のためのシステムの充実や、企業人による出前授業を企画して学生への啓発活動、しごとプラザとのタイアップ企画、その他企業への働きかけに取り組む。	⑥ (a)4年生と専攻科1年生にスケジュールダイアリーを配布した。キャリア支援講座(出前授業、セミナー、研修)に持参させ、気がついたことをメモを取る習慣をつけさせた。3月に実施した合同企業説明会でも最大限に活用を確認した。	A	
⑥ (b)インターンシップ受け入れ企業と連携して研修内容の比較調査を行い、研修モデルや蓄積した研修ノウハウを提供することにより、研修の充実を図る。	⑥ (b)インターンシップのアンケート内容からも、質の高い感想と満足度を読み取ることができた。	A	
⑦ (a)企業人材を活用し、「企業技術者等活用プログラム」を引き続き実施する。	⑦ (a) ・「企業技術者等活用プログラム」を利用して、「卒業研究」や複数の「授業」、「実習」において企業技術者が参加して実践的な取り組みを行った。 ・「三豊市少年少女発明クラブサポート学生のアドバイス及指導」、「地域連携行事活動学生のアドバイス及指導」、「デザイン教育の実践的教育」、「ビジネス講座」、「実験実習における英語コミュニケーション教育」を行った。	A	
⑦ (b)現役ICT企業技術者を活用して学生のソフトウェア開発能力を向上させ、地域連携に結び付ける。	⑦ (b)電気情報工学科の「電子情報工学応用実験」において、地元IT企業より技術者に来ていただき、1コマの講義を行った。「ソフトウェア技術者による卒業研究及特別研究の指導助言」を行った。	A	
⑦ (c)香川高専人材バンクを利用して、高専OBの人材活用を推進する。	⑦ (c)昨年に引き続き、香川高専人材バンクの協力を得て「OBによる就職体験談」などを複数の専門学科において実施した。建設環境工学科では、1年生、3年生、5年生の授業で香川高専人材バンク登録のOBによる実務経験を活かした授業を実施した。	A	
⑧ 長岡技術科学大学と連携して、実践的・戦略的技術者育成プログラム(技術者育成アドバンスコース)を実施する。	⑧ 長岡技術科学大学と連携して、実践的・戦略的技術者育成プログラム(技術者育成アドバンスコース)を実施した。Stage1の協働科目を本校で開講し、技科大が実施する先導科目にコース生が参加した。	A	
⑨ (a)「創造性豊かな実践的技術者養成コース」を利用した授業、WebClassを利用した演習を実施する。	⑨ (a)通信ネットワーク工学科4年において「創造性豊かな実践的技術者養成コース」を利用した授業を前期において実施した。また、同クラスの無線工学演習においてWebClassを利用した演習を実施している。	A	
⑨ (b)教員にe-Learningサーバの活用講習会等を行って、積極的な活用を促す。	⑨ (b)e-Learningシステムを利用したアンケート調査を実施した。アクティブラーニング支援システムの利用者講習会を計画している。	A	
<b>(5) 学生支援・生活支援等</b>	<b>(5) 学生支援・生活支援等</b>		
① (a)教職員対象に「メンタルヘルス」に関する講習会、学生対象に「薬物乱用防止」「喫煙防止」「自殺防止」に向けた講習会、「自殺防止アンケート」を実施する。教職員対象に「メンタルヘルス」に関する講演会を実施する。学生対象に「自殺予防」に向けた講演会、アンケートを実施する。	① (a)教職員対象の「メンタルヘルス」に関する講演会を3月2日に開催した。 [高松] ・2年生対象に「薬物乱用・喫煙防止に関する講演」を実施した。 ・自殺予防対策アンケート「こころと体の健康調査」を全学生に年2回実施(6月、11月)した。 ・1~3年生に「Hyper-QU」を実施(7月)した。 ・全学生に学生相談啓蒙の一環として「相談のすすめ」、「学生相談室リーフレット」を配付した。 ・1年生に「自殺予防リーフレット」を配付した。 [詫間] ・5月、全学年対象「こころと体の健康調査」を実施した。 ・10月、1年生対象「第1学年の高専生活における意識調査」を実施した。 ・11月、1~3年生対象「hyper-QU」、4年~専攻科生対象に「心の元気度チェック」アンケートを実施した。 ・12月、全学年対象本年度2回目の「こころと体の健康調査」を実施した。 ・2月、教職員対象「発達障害支援における合理的配慮」と題して、香川県発達障害者支援センター講師による講演会を実施した。 ・学生を対象に「自殺予防に向けた講演会」(12/5、1/19)を実施した。 ・1年生に「学生相談室リーフレット」を配布して、各教室には「自殺予防リーフレット」を配置した。	S	S
① (b)AED講習会、二輪車の交通安全教室や携帯電話・ネット安全教室を開催する。	① (b)運動部の学生および顧問教員を対象に「AED講習会」を実施。1・3年生対象に「ネットリテラシー」、1・2年生対象に「交通安全講話」、全学年の二輪車通学希望者に「二輪車安全運転講習会」を実施した。全学生を対象に所轄警察署交通課長による交通講話を実施した。	S	A



平成26年度 年度計画	平成26年度 実績報告	自己評価	
② 寄宿舎などの学生支援施設の実態調査とニーズ調査を実施し、その結果を踏まえて整備計画を見直し、学生の生活拠点としての要望に添った整備計画とする。また、安全安心な学生支援施設の整備を推進する。	② 寄宿舎の実態調査及びニーズ調査は機構本部からの調査により実施した。施設整備 (詫間C) 第一講義棟にスロープ設置 (詫間C) 外部階段改修 (詫間C) 第二学科棟に身障者WC設置 学生支援施設の整備計画の見直しはH27年度以降の検討課題とする。	A	
③ 高専機構や産業界から収集した各種奨学金に関する情報は、HPや香川高専だより、電子掲示や教室掲示を通して学生に迅速に周知する。	③ 高専機構や産業界から収集した各種奨学金に関する情報は、HPや香川高専だより、電子掲示や教室掲示を通して学生に迅速に周知している。	A	
④ キャリアサポートセンターによる企業情報、進路情報などの提供体制や相談体制を充実させた学内の取組状況を総括する。特に「スケジュールダイアリー」の利用状況とその効果について調査する。	④ 就職協定の大幅な変更に対応するため、各企業や就職支援企業からの情報を積極的に収集した。学生からもスケジュールダイアリーの高い評価を確認した。	A	
<b>(6)教育環境の整備・活用</b> ①-1 エネルギー使用状況の調査をし報告することで、省エネ活動を啓発する。また、施設・設備の老朽化改善に対応した整備計画を推進し併せて省エネ化も実現する。	<b>(6)教育環境の整備・活用</b> ①-1 毎月定期にエネルギー(電気)の使用量を学内メールにより情報発信し、省エネに対する意識を啓蒙した。(高松C)管理棟改修工事、(詫間C)第二学科棟改修工事及び(詫間C)寄宿舎2寮トイレ他改修工事等において、複層ガラス・LED照明・節水型水栓の採用等による省エネ化を踏まえた老朽改善整備を実施した。	S	S
①-2 両キャンパスともに完了した耐震化の維持保全を推進する。	①-2 耐震改修の完了した各建物の耐震要素に異状のないことを不定期に確認した。	S	
①-3 今年度中に両キャンパス保有のPCB廃棄物の処分を行う。	①-3 高濃度PCBは既に廃棄処分済み(10月処分済み)。微量PCBは今年度中に廃棄処分予定であったが、より安価な処分場が営業開始したため、処分をH27年度に変更した。	S	
② 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会実施と受講を促す。	② ・新入生及び新規採用教員全員に「実験実習安全必携」を配付済。 ・「かがわ衛生管理者の集い」、「衛生管理者免許試験準備講習」等について、安全衛生管理委員会委員に周知し、受講した。 ・寄宿舎の実態調査及びニーズ調査は機構本部からの調査により実施した。学生支援施設の整備計画についてはH27年度以降も引き続き検討していく。 安全安心な学生支援施設の整備 ・(詫間C)外部階段改修 ・(詫間C)第一講義棟にスロープ設置	A	A
③ 「男女共同参画推進会議」を定例化し、女性教員にとって働きやすい職場環境の整備を推進するための方策を検討する。	③ ・平成26年度の「男女共同参画推進会議」を開催し、本会議において、環境改善及び整備予定について協議を行った。 ・H27年度の改修工事により、女性教職員の休憩室・更衣室・パウダールームを整備予定。 ・女子寮の女性教員用宿直室の整備(US・WC設置等)を計画している。	A	
<b>2 研究に関する事項</b> ① (a)全国高専テクノフォーラムや新技術説明会などで研究成果を積極的に発信する。	<b>2 研究に関する事項</b> ① (a)全国高専テクノフォーラムや新技術説明会、首都圏の展示会などで研究成果を積極的に発信した。	A	A
① (b)JST新技術説明会、イノベーションジャパン等の研究成果を公開できる展示会、発表会へ参加する。	① (b)JST新技術説明会、イノベーションジャパン、マイクロエーブ2014等の研究成果を公開できる展示会、発表会へ参加した。	A	
① (c)首都圏で開催される展示会に教員シーズ等を発表する。	① (c)首都圏で開催される展示会に教員シーズ等を発表した。Photonix2014アカデミックフォーラム、TECHNO-FRONTIER2014特別企画産学交流技術移転フォーラム、セミコンジャパン2014(The高専)等	A	
① (d)科学研究費補助金等積極的申請のガイダンスを実施するほか、外部資金獲得のための有効な方策等を検討する。	① (d) ・科学研究費補助金等積極的申請のガイダンスを実施したほか、外部資金獲得のための有効な方策等を実施した。この結果、代表者申請率89.5%(高専6位)、分担含む申請率121%(同3位)と申請数・率を増やした。 ・文部科学省「地(知)の拠点整備事業」説明会、文部科学省「大学教育再生加速プログラム」説明会に参加し、政府系大型競争的外部資金獲得のための有効な方策を検討した。	A	
② (a)地域イノベーションセンター報2014の発行や教職員による企業見学会を実施するとともに、企業からの技術相談を高専教員シーズに繋いで、共同研究プロジェクトへの展開を推進する。	② (a) ・企業からの技術相談を高専教員シーズに繋いで、共同研究プロジェクトへの展開を推進した。 ・地域イノベーションセンター報(隔年発行計画のため)の代わりにシーズ集の整備を行った。	A	
② (b)四国地区高専、県内大学高専合同シーズ発表会などを開催する。	② (b) ・四国地区高専(高知高専)に教員が参加して研究発表を行った。 ・「みとよマーケット〜三豊で発見! 職と食〜」においてシーズ発表会を開催した。	A	A
② (c)A-STEPへの申請や本校のシーズを活用した共同研究など産官学連携事業を推進するとともに、四国地区高専で共同して、四国地区内での教員シーズや知的財産シーズの共有と企業とのマッチングを促進する仕組みを検討する。	② (c)A-STEPへの申請や本校のシーズを活用した共同研究など産官学連携事業を推進するとともに、四国地区高専で共同して、四国地区内での教員シーズや知的財産シーズの共有と企業とのマッチングを促進する仕組みを推進した。	A	

平成26年度 年度計画	平成26年度 実績報告	自己評価		
<p>③ (a)学生、教職員への知的財産教育を行い、事業化可能な知的財産取得を推進する。</p> <p>③ (b)学生向けおよび教職員向けの知的財産講習会等を行う。</p> <p>③ (c)学内発明コンテストを実施し、学生の知財意識の涵養をはかるとともに、学生による知財出願を支援する。</p>	<p>③ (a) ・知財実施契約に基づく事業化を達成し、実施料収入を得るに至った。 ・学生対象の夏季集中講義を開催、学生向け知財講演会開催、教職員向けミーティングを開催、弁理士による学生向け特許出願に関する指導を実施した。</p> <p>③ (b) ・学生向けの知財管理技能士検定の受験講習会を実施した。 ・学生向け講演会(H26.6.22, H26.9.25, H26.9.29, H27.1.19)を開催した。 ・知財教育を積極的に行うため本科4年生、専攻科1年生にラボノートを配布した。</p> <p>③ (c)学内発明コンテストを実施し、学生の知財意識の涵養をはかるとともに、学生による知財出願を支援した。この結果パテントコンテストで2件採択された。</p>	A	A	A
<p>④ (a)香川高専HPや技術シーズ集などの印刷物で研究成果を定期的に公開する。</p> <p>④ (b)香川高専HPに、みらい技術共同教育センター並びに地域イノベーションセンターの活動をより詳細に掲載する。</p>	<p>④ (a)香川高専HPの技術シーズ集を高専機構統一のフォーマットに改め、シーズファイルの更新を行った。国立高専研究情報ポータルを利用して公開している。</p> <p>④ (b)香川高専HPに、みらい技術共同教育センター並びに地域イノベーションセンターの活動をより詳細に継続して掲載している。</p>	A	A	A
<p>⑤ (a)公開講座の情報発信・収集に、香川高専HPやICTオープンキャンパス始め、各種媒体を継続的に活用する。</p> <p>⑤ (b)小・中学校への出前授業や公開講座をより積極的に実施し、その取組事例の情報発信に努める。</p> <p>⑤ (c)地域やコミュニティセンター等でのイベントに積極的に参加協力する。</p> <p>⑤ (d)県・市との連携による講座について、継続して充実を図る。</p> <p>⑤ (e)地元の組込み技術者を対象とした組込み技術者セミナーなどの企業技術者学び直し講座を開催する。</p>	<p>⑤ (a)公開講座や出前講座、学び直し講座などの情報発信・収集に、香川高専HPやICTオープンキャンパス始め、各種媒体を継続的に活用したほか、市町村の広報誌に掲載、図書館及びコミュニティセンター等へのチラシ配布等を行った。</p> <p>⑤ (b) ・小・中学校へのロボット教室などの出前授業や公開講座をより積極的に実施し、その取組事例の情報発信を行った。 ・三豊市少年少女発明クラブ活動への支援を行った。 ・三豊市内小中学校での簡単ロボット教室開催した。</p> <p>⑤ (c) ・地域やコミュニティセンター等でのイベントに積極的に参加協力し、小学校等におけるロボット教室や科学体験フェスタを行った。 ・「仁尾八朔人形まつり」、「みとよ商工まつり」、「クリスマスコンサート」、「みとよマーケット」、「簡単ロボット教室」、「Wii講座」、「出前ものづくり講座」、「科学教室」に参加協力した。</p> <p>⑤ (d) ・県・市や財団との連携による講座について、継続して実施し充実を図った。具体的には、有限要素法解析、Android入門、材料疲労講座、原位置透水試験法などのセミナーを計13回開催した。 ・三豊市：小学生向け理科学離れ対策事業を継続。高松市：「はつらつ介護予防教室」を新規開催した。</p> <p>⑤ (e)地元の組込み技術者を対象とした組込み技術者セミナーなどの企業技術者学び直し講座を開催した。9月18、19、26日に組込み技術セミナー(基礎コース)を開催した。また、12月4、5日に組込み技術セミナー(実力養成コース)を開催した。「簡単英語による初歩のArduinoプログラミング体験講座」を開催した。</p>	A	A	A
<p><b>3 国際交流等に関する事項</b></p> <p>①-1 (a) ISATE、ISTSへの参加を促進する。また、協定校とともに国際セミナーや国際シンポジウムを開催し、相互に学生受入と教職員派遣を推進して、交流の活性化を図る。そのために学生交流等に必要となる協定の実施細則締結や更新、覚書取交を検討する。</p> <p>①-1 (b)教育の質の維持・向上を図りながら、教員能力開発・指導力強化のための在外派遣事業に取り組む。</p> <p>①-1 (c)教務事案と国際事案との摺合せに向けた学内連携体制を強化する。</p> <p>①-2 (a)日本学生支援機構(JASSO)等の奨学金制度へ積極的に申請し、本校との協定校との間で学生の短期派遣や短期受入を推進する。</p>	<p><b>3 国際交流等に関する事項</b></p> <p>①-1 (a) ・2014.6 IPGS2014をマラ工科大学と共催し、学生4名の研究発表と教員3名の講演を実施 ・2014.6 専攻科入試の結果、協定校の東洋未来大学から私費留学生2名の受入を決定 ・2014.8 ニュージーランドで海外語学研修を実施(参加16名) ・2014.9. ISATE2014(シンガポール)に学生1名、教員3名を派遣 ・2014.9 正修科技大学に客員教授として教員派遣 ・2014.10 東洋未来大学に学生8名、教職員5名を派遣 ・2014.11 マラ工科大学から教員1名を招聘し、英語による専門授業を実施 ・2014.11 ISTS2014(台北)に学生5名、教員1名を派遣 ・2014.12 RMUTTから副学長を招聘し、特別講義、交流協議等を実施 ・2015.2 IC-NET2015をマラ工科大と共催 [協定関係] ・2014.7 正修科技大学と学生交流実施細則(MOA)を締結 ・2014.8 ラジャマンガラ工科大学とMOUを締結 ・2015.3 泰日工業大学とMOUを締結</p> <p>①-1 (b) ・教員1名を在外派遣。在外研究員(区分B)に1名応募。 ・「英語授業講義力強化プログラム」に教員参加。</p> <p>①-1 (c)専攻科委員会、教務委員会と案件ごとに適宜連絡調整を行った。</p> <p>①-2 (a) ・JASSOのH27年度海外留学支援制度の短期派遣(研究型)派遣と受入れにそれぞれ申請した。 ・2014.9, 2015.3 H26年度JASSO採択事業の香川高専グローバルエンジニア研修プログラム(GETProgram)を2回実施し、計9名の学生が参加した。</p>	S	A	A



平成26年度 年度計画	平成26年度 実績報告	自己評価	
①-2 (b)受入れ拠点の拡大に努めて海外インターンシップへの参加やISATE、ISTSでの学生交流を支援する。	①-2 (b) ・ ISATE2014(シンガポール)に学生1名、教員3名を、ISTS2014(台北)に学生5名、教員1名を派遣した。 ・「学生による国際交流活動報告会」を2回開催し、国際シンポジウム、海外インターンシップ等の活動内容を学生向けに紹介した。	A	A
② (a)本校の寮において、協定校等からの学生の短期受入等に必要環境整備に関する調査を行い、留学生が快適な生活の確保に向けた寄宿舍等の整備を推進し、具体の受入れ検討を行う。	② (a) ・2014.8 正修科技大から学生2名を受入れ、学生寮を利用。今後の環境整備に向けて検討を継続する。 ・「香川高等専門学校学生寮におけるビジターの宿泊についての申合わせ」を制定し、受け入れ体制を整えた。	A	A
② (b)国際交流センターと情報を共有した上で、留学生への教育・支援・指導に関する更なる充実策を検討する。	② (b) ・「留学生の手引き」の改訂、ガイダンスでの利用 ・専攻科生を含む留学生支援体制の充実に向け、留学生規程、チューター実施要項を改訂した。	A	
③ (a)留学生見学旅行及びブロック交流会を実施するとともに、全国規模の文化交流事業への参加を支援する。	③ (a) ・2014.06.12 本校主催の留学生交流会を2回開催し、地域の国際交流支援団体等を通じて留学生の地域活動を支援 ・2014.12 四国地区留学生交流会に本校留学生が参加 ・2015.1 本校主催で留学生見学旅行を実施 ・留学生が地域の作文コンテスト、スピーチコンテストに参加(第25回外国人日本語弁論大会で入賞)。	A	A
③ (b)協定校からの短期受入可否を検討して、協定校への短期派遣を企画する。また、学生支援機構(JASSO)の支援申請を検討する。	③ (b) ・H27年度からの実施に向けて短期学生受入れプログラム(GETProgram)を作成。協定校に発信した。 ・RMUTT学生をGETProgramによりH27年4月に受入れることに合意した。 ・JASSO採択事業の一環で協定校(マラ工科大)への研究型短期派遣を2回実施 ・JASSOの短期学生受入れプログラムに申請した。	S	
<b>4 管理運営に関する事項</b>	<b>4 管理運営に関する事項</b>		
① 両キャンパス一体となったスケールメリットを生かし、予算編成において、戦略的かつ中長期の事業計画に基づく序列配分を行う。	① 校長裁量経費を財源とした学内競争的資金を設け、高松・詫間両キャンパス間共同研究支援経費の配分、また、教育、研究プロジェクト支援のためのインセンティブ経費の配分など、戦略的な予算の序列配分を行った。	A	
③ 管理業務の集約化やアウトソーシング等により、業務効率化が図られる業務について、教職員の意見が反映される仕組みを設けて検討を行う。	③ 管理運営業務の効率化を図るため、平成27年度に「企画評価室」を設置する規程を制定した。	A	
④-1 整備した納品検収体制の実効性が失われないよう検証する等、規範意識の向上とマニュアルの徹底化を進め、会計事務担当者等のために研修等を行う。	④-1 納品検収体制の責任所在を明確化にするため、発注者、検収者を異にした担当者一覧表の整備を行うとともに、納品書への受付印に併せて検収担当者名印の押印を義務付け、納品検収体制の実効性を高めた。 また、会計事務担当者への会計規則等研修会を12月に開催・実施し、職員のスキルアップを図った。	A	
④-2 階層別研修等に積極的に教職員を派遣し、全学に向けてコンプライアンス意識を浸透させる措置を講ずる。	④-2 文部科学省が開催した「研究活動における不正行為への対応等のに関するガイドラインに係る説明会」に事務職員2名を派遣。四国経済産業省で開催された安全保障貿易管理説明会及び営業秘密管理等に関する説明会に事務職員3名を派遣した。	A	
⑤ 内部監査項目の見直しを検討し、発見した課題については、情報を共有し、会計規範やその運用見直し等により速やかに解決する。	⑤ 機構本部作成「公的研究費に関する内部監査マニュアル」に基づき、キャンパス間相互会計内部監査を12月に実施し、規則に則った会計事務処理の確認、また、運用上におけるキャンパス間での整合性の確認を行った。	A	
⑥ 公的研究費等に関する不正使用の再発防止策を教職員に周知し、不適正経理の防止に取り組む。	⑥ 公的研究費等の不正使用の再発防止策を徹底するため、年度当初(平成26年4月)に新任教職員を対象とした、研究費等不正使用防止に関する研修会を実施するとともに、平成26年9月には全教職員を対象とした、公的研究費の適正な運営・管理についての研修会を実施し、研究費等不正使用防止対策の取り組みを行った。 また、平成27年1月26日付けで「公的研究費等の取扱いに関する規則(機構規則第121号)」が制定されたことに伴い、平成27年3月に公的研究費等の運営・管理体制についての研修会を実施し、教職員へ公的研究費等不正防止計画等の周知徹底を行った。	A	
⑦ 事務職員や技術職員の能力の向上を図るため、必要な研修会への参加を推進するとともに、成果主義によるインセンティブ付与を検討する。	⑦ ・機構本部、人事院及び大学等が主催する各種研修に延31人の教職員を派遣し、能力の向上を測った。 ・機構本部が配信した人事評価制度研修会を事務系の全職員に周知し受講させ、インセンティブ付与へ向けて土台形成に着手した。 ・各地区開催の各種施設系技術職員研修等に可能な限り参加している。 ・H26年度 中四国地区施設系職員研修 ・H26年度 九州地区施設担当中堅職員研修 ・H26年度 香川高専FD・SD研修 ・H26年度 高専機構施設担当職員研修 ・H26年度 四国地区中堅係員研修(人事院)	A	A

平成26年度 年度計画	平成26年度 実績報告	自己評価	
⑧ 他機関人事責任者との連絡会を活用し、事務職員及び技術職員についての人事交流計画・復帰後の効果的配置を策定する。	⑧ 四国地区国立大学法人等人事担当課長会議及び中国四国地区労務管理連絡会において、事務職員及び技術職員の人事交流について協議を行った。会議終了後、平成27年4月付けで新居浜高専に事務職員1名の配置替を行った。	A	
⑨ (a)情報セキュリティ対策のための全学委員会による実施手順策定を計画的に進めるとともに、事故即時処理のためのWeb危機管理チームに権限を委譲する。	⑨ (a)高専機構の情報セキュリティポリシーの見直し等を行うため、本校で策定済みの情報セキュリティポリシー等を高専機構に提出した。利用者向け情報セキュリティ実施手順については、高専機構の情報国立高等専門学校機構情報セキュリティ専門部会及びIT研修専門部会で作成された「情報システムユーザガイドライン」を追加・修正のうえ、香川高専版として活用している。Web危機管理室は、本校のホームページ及びメールシステムにおいて発生することが予想される様々な事象に伴うアクセス障害等に迅速に対処するため、直ちに必要な措置を講じる権限を与えられている。	A	
⑨ (b)トップセミナーの研修情報を全学啓発に利用する。	⑨ (b)教職員の情報セキュリティ意識向上のため、外部で実施される研修情報を本校グループウェアで周知した。 今年度から高専機構が実施する、情報セキュリティ研修に積極的に参加した。 【情報セキュリティトップセミナー】 管理職向け(今年度から毎年度実施) 実施日:平成26年6月24日(火)※テレビ会議システムを利用し配信 対象:校長、副校長、学科長、情報センター長、事務部長、課長等 聴講数:33名(100%) [当日聴講:17名(52%), 録画閲覧:16名(48%)] 【eラーニング(140分)】 教職員向け(今年度から毎年度実施) 実施日:平成26年7月1日～10月31日までの4ヶ月間 対象:全教職員 [受講状況は情報セキュリティ監査の対象] 聴講数:225名(100%)	A	A
⑩ (a)機構の示す成果指標に基づき、全学委員会等において、所掌事項における年度計画の策定や事業実績の分析評価を検討する。	⑩ (a)「企画評価室」の設置を検討する過程で、学内に意識づけを行った。	A	
⑩ (b)機構の示す成果指標に基づき、各学科・室・センター・施設等の特性に応じた具体的な取り組みを検討する。	⑩ (b)「企画評価室」の設置を検討する過程で、評価分析体制の規範化を目指した。	A	A
<b>II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置</b> (a)一般管理費縮減のため、コピー用紙節減方策や消耗品の一括購入を採用することとし、契約に当たっては、原則として一般競争入札等により、企画競争や公募を行う場合においても競争性・透明性の確保を図るため、高専間相互監査を実施して入札及び契約の適正な実施についてチェック及び随意契約の見直しを行う。  (b)校長のリーダーシップの下、校長裁量経費を学内競争的資金としてインセンティブに利用し、戦略的な経費配分を実施する。さらなる業務の効率化を進めるための有効な手法を検討し、経費削減を図るために物品再利用など、コスト削減を実施する。  (c)契約にあたっては、原則として一般競争入札等により実施し、企画競争や公募を行う場合においても競争性・透明性の確保を図り、また、入札及び契約の適正な実施についてチェックないし随意契約の見直しを行う。	<b>II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置</b> (a)一般管理費縮減のため、印刷室へコピー用紙削減ポスター(白黒・両面印刷への協力)掲示を実施し、今後、諸会議における配付資料(印刷物)の見直し(ペーパーレス化)。さらに、コピー用紙は裏紙使用を徹底し、用紙使用量節減に努めた結果、管理運営(事務)部門において、約287千円(26年度比)の経費削減となった。 また、契約に当たっては、原則、一般競争入札等によるものとし、企画競争、公募の場合、競争参加資格の地域を拡大するなど、競争性・透明性の確保を図った。これらの実効性について、キャンパス間相互会計内部監査(12月実施)により確認等を行った。  (b)校長のリーダーシップの下、校長裁量経費を学内競争的資金としたインセンティブ経費として有効活用した結果、外部資金(科学研究費補助金)への代表者申請件数が約23%増加(26年比)した。  (c)契約に当たっては、原則、一般競争入札等によるものとし、企画競争、公募の場合、競争参加資格の地域を拡大するなど、競争性・透明性の確保を図った。これらの実効性について、キャンパス間相互会計内部監査(12月実施)により確認等を行った。 また、工事契約にあたっては、250万円を超える工事について一般競争入札を、500万円を超える工事については一般競争入札(総合評価型)を導入し、契約に係る競争性・透明性の確保を図った。	A	A
<b>III 予算(人件費の見積もりを含む。), 収支計画及び資金計画</b>  1 収益の確保, 予算の効率的な執行, 適切な財務内容の実現 政府系大型競争的的外部資金申請に積極的に取り組む。	<b>III 予算(人件費の見積もりを含む。), 収支計画及び資金計画</b>  1 収益の確保, 予算の効率的な執行, 適切な財務内容の実現 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に応募した。 文部科学省「大学教育再生加速プログラム」に応募した。	A	
<b>V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画</b> 土地の譲渡に向けた諸手続を、予算を鑑みながら実施する。	<b>V 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画</b> 中期計画で定めた、勅使町団地の一部土地(約5,606㎡)の譲渡等に向けた手続を進め、平成26年度においては、当該土地に隣接する土地所有者との境界確認及び境界確定を実施した。 平成27年度以降、当該土地の分筆登記を実施するとともに、予算を鑑みながら譲渡等に向けた諸手続を進める。	A	
<b>VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項</b> 1 施設・設備に関する計画 エネルギー使用状況等の調査結果から、整備計画・整備方針の見直しを図る。  施設・設備の老朽化改善に対応した整備計画を推進し併せて省エネ化も実現する。	<b>VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項</b> 1 施設・設備に関する計画 エネルギー調査結果を踏まえ、施設・設備の整備計画・整備方針は引き続き現状のまま推進する。  (高松C)管理棟改修工事、(詫間C)第二学科棟改修工事及び(詫間C)寄宿舎2寮トイレ他改修工事等において、複層ガラス・LED照明・節水型水栓の採用等による省エネ化を踏まえた老朽改善整備を実施した。	S	S



平成26年度 年度計画	平成26年度 実績報告	自己評価	
<p><b>2 人事に関する計画</b>  <b>(1)方針</b>            教職員の人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施又は他機関研修に派遣支援することで資質の向上を図る。</p>	<p><b>2 人事に関する計画</b>  <b>(1)方針</b>            ・4月に教員4名、事務6名を10月に1名の教員をキャンパス間の人事異動を実施した。            ・機構本部、人事院及び大学等が主催する各種研修に延45人の教職員を派遣し、資質の向上を図った。</p>	A	A
<p><b>(2)人員に関する計画</b>            FDやSD等による常勤職員の職務能力向上に努めるとともに、事務組織の効率化を図り、将来構想に応じた教職員配置をシミュレートする。</p>	<p><b>(2)人員に関する計画</b>            ・平成26年9月にFD・SD研修会を実施した。            ・機構本部からの人員計画に基づき、事務組織を見直し効率化を図った。</p>	A	